

平成31年度(2019年度) 施政方針

平成31年(2019年)第1回市議会定例会が開会され、石阪市長は2月22日の本会議で施政方針を表明しました。ここでは、その概要を掲載します。全文は町田市ホームページでご覧いただけます。

市HP 平成31年度施政方針 検索 企画政策課 ☎724・2103

輝く町田市の姿を発信

町田市長 石阪丈一



2019年度の 市政運営の視点

町田市は、近年、0歳から14歳の年少人口の転入超過数が多く、子育て世代から選ばれるまちとなってきました。しかし、2019年1月現在の人口総数は、対前年比でマイナス57人と市制施行後初の人口減少となりました。これは出生数が少なく、亡くなる方が多いためです。

このような状況の中、国は出入国管理法の改正を決め、外国人労働者の獲得に動き出しました。人口に占める外国人の割合は加速度的に増加し、近い将来、市役所業務のあり方にも大きな転換が訪れることは明白です。

遠い話だと思っていたことが、実は既に起こり始めているという昨今の事態に鑑みると、やはり常に先を見据えた対応をとることが重要であると感じています。

2019年度は平成が終わり、新たな時代が始まる節目です。今、新たな気持ちで動き出し、町田市の未来を明るくものにしていかなければなりません。幸い、まちだ〇ごと大作戦18-20では、60件以上の提案が実施に至るなど、市民の持つポテンシャルの高さが証明されています。

また、今後は、ラグビーワールドカップ2019™の開催など、国際交流やビジネスのチャンスも数多く控えています。この機会を逃すことなく、皆が一丸となって、輝く町田市の姿を、全国へ、そして世界へと発信していきたいと考えています。



まちだ〇ごと大作戦18-20

2019年度の 主要な取り組み

将来を担う人が育つまちをつくる 保育施設の整備と 子どもの居場所づくり

2019年4月の待機児童ゼロという目標の達成とその状態の維持を目指し、3歳以降の保育ニーズなどに対応した施設整備を行っていきます。また、町田地区に市内2か所目となる病児保育施設を新たに整備することに併せ、保育施設での急な発熱等に対応する「病児保育お迎え事業」を開始します。

子どもの居場所づくりでは、小山ヶ丘の三ツ目山公園に市内4か所目となる常設型冒険遊び場を整備するなど、子どもたちの豊かな遊び場を更に充実させていきます。

教育内容・教育環境の充実

学校教育に関しては、子どもたちの生きる力を育てていきます。

まず、町田市ならではの英語教育

「えいごのまちだ事業」を更に推進し、中学校へと取り組みを展開します。外国語指導助手の配置時間を週8時間に増やすとともに、「読む、聞く、話す、書く」の技能を総合的に向上させるため、GTECという英語検定を導入していきます。

また、ICT機器やソフトウェアを積極的に活用していきます。大型提示装置による「一斉学習」をはじめ、タブレット端末によってグループの意見や考えを即時に共有する「協働学習」、個々の学習進度に応じた「個別学習」を効果的に使い分け、学力向上につなげていきます。

教員の働き方改革では、学校で発生するさまざまな問題について、法的側面から早期に対応し解決を図るため、スクール・ロイヤーを新たに導入します。

そして、小・中学校の体育館への空調設備設置については、2021年度までに全校への設置工事を完了させ、熱中症対策及び災害時の避難施設機能の向上を図っていきます。



英語学習の授業風景

安心して生活できるまちをつくる

地域活動の支援

地域活動団体と住民・企業などとの橋渡し役を担う町田市地域活動サポートオフィスを開設します。相談対応や団体運営のノウハウの提供などに加え、まちだ〇ごと大作戦18-20をきっかけに生まれた地域のつながりが続いていくようサポートする役割も担っていきます。

高齢者福祉の充実

これまでの特別養護老人ホームの整備により、約9割の市民が申し込みから1年以内に入所できるようになりました。今後は、認知症高齢者グループホームなどの地域密着型サービス施設の整備を推進します。また、新たな介護人材確保事業を開始するなど、介護が必要な時に安心して利用できる環境づくりを進めます。

賑わいのあるまちをつくる

町田駅周辺のリニューアル
多摩都市モノレールの延伸は、町田駅周辺をリニューアルする最大のチャンスです。限られたスペースを交通基盤で埋め尽くすのではなく、全体を大きな広場と見立て、その中に電車やバス、モノレールへの乗り換え口がある、新しい駅前にはという思考の転換が必要です。

これを踏まえ、2019年度は、モノレールを迎える駅前空間の構成や機能配置等のあり方について、関係事業者と検討を深めていきます。また、道路空間を活用して賑わいを創出すべく、都市再生推進法人を指定し、

原町田大通りを使った実証実験に取り組みます。

芸術の杜の魅力向上

芹ヶ谷公園芸術の杜では、芹ヶ谷公園と(仮称)国際工芸美術館とを一体的に整備することで、芸術の杜の持つ魅力と個性の更なる向上を図ります。そして、まちなかの多彩なアート活動とも融合し、他にはないまちの賑わいを創出していきます。

町田の「農」を提供

町田薬師池公園四季彩の杜では、2020年4月オープン of ウェルカムゲートに、農産物や加工品など、町田の「農」を発信する直売所機能を導入します。これまで以上に市内の農業者と連携し、安全でおいしい町田産農産物を提供していきます。

「みる」スポーツの拡充

野津田公園スポーツの森では、市立陸上競技場の増席工事を進めます。これによりJ1クラブライセンスの基準を満たし、かつ大規模なスポーツの大会にも対応可能となります。

同様に、スポーツ観戦の視点から、市立総合体育館のメインアリーナに大型映像装置を整備します。

スポーツの国際大会開催に向けて

9月に開催のラグビーワールドカップ2019™では、ナミビア代表のキャンプを迎え入れ、選手と市民の交流の機会を設けていきます。

東京2020オリンピック・パラリンピックに向けては、7月の自転車競技ロードレースのテストイベントをきっかけに、市民ボランティアの活躍の場を拡充させます。更に、マラソングランドチャンピオンシップにおいて、パブリックビューイングを行い、町田市出身の選手を応援するなど、2020年の大会開催に向けた気運醸成を図ります。

南町田グランベリーパークのまちびらき

南町田グランベリーパークが今秋にまちびらきを迎えます。鶴間公園は新たな装いとなり、まちの中心部分であるパークライフ・サイトには、スヌーピーミュージアムやまちライブラリーなどがそろう予定です。新しい商業施設も含め、誰にとっても居心地の良い、何度でも訪れたいまちに仕上げたいと考えています。



新しいまちのイメージ

暮らしやすいまちをつくる

鶴川駅周辺のまちづくり

昨年、小田急電鉄(株)による「鶴川駅アイディアコンテスト」が行われ、200点を超える魅力的な提案が集まりました。駅を中心としたまちづくりへの期待の高まりを実感したところです。こうした新たな駅前空間の

創出を目指し、南北自由通路の基本設計に取り掛かるとともに、南口の土地区画整理事業の施行認可を取得してまいります。

多摩都市モノレールの延伸

2018年度はモノレール延伸の推進体制を整え、東京都等との協議を深めてきました。また、交通事業者や大規模団地事業者などとの協議を重ね、協力体制を築いてきました。2019年度は、バス乗り継ぎ拠点の整備や、連節バスの追加導入など、延伸の効果を最大限に発揮できる取り組みを進めます。



多摩都市モノレール

行政経営改革の取り組み

子どもの市政参画

これまでの「若者が市長と語る会」や高校生を評価人に迎えた「市民参加型事業評価」が(公財)日本ユニセフ協会から高く評価されました。その結果、同協会から委嘱を受け、「日本型子どもにやさしいまちモデル」の検証作業を開始しました。

2019年度は、高校生が評価する事業数を拡大し、市民参加型事業評価を開催します。

会計年度任用職員制度の導入

2020年4月、市役所の臨時職員及び非常勤嘱託員の統一的な取り扱いの枠組みを定めるものとして、会計年度任用職員制度が導入されます。正規職員は、事業の計画や組織の管理運営に注力するとともに、会計年度任用職員は、定型的な窓口対応や資料作成に特化するなど、役割を整理し、最適な業務執行体制を構築します。

公共施設の再編

公共施設再編計画の推進のため、人が集まる場所へ赴き、再編の意義や必要性について周知してまいります。

また、町田駅周辺にある公共施設の複合化案作成に向けた調査・検討を開始します。案の作成に際しては、民間活力を取り入れる事業手法を検討します。

むすびに

2019年度は、2022年度から始まる次期基本構想・基本計画の策定検討に本格的に着手します。

まずは、町田市の将来像を描くことから始めますが、これらは市民とともに作り上げてこそ意味があると思っています。そのため、普段から皆さんと円滑なコミュニケーションが取れる関係を築き、信頼される市役所を目指してまいります。